

山陽新幹線への再生可能エネルギー由来電力追加導入

西日本旅客鉄道株式会社（以下、JR西日本）は、関西電力株式会社（以下、関西電力）およびENEOSリニューアブル・エナジー株式会社（以下、ERE）と当社専用の太陽光発電設備を設置し、そこで発電された再生可能エネルギー由来電力（以下、再エネ電力）を、山陽新幹線新大阪駅～岡山駅間(関西電力送配電供給エリア)の列車運転用電力として、導入します。

当社グループは、脱炭素社会の実現に向け、環境長期目標「JR西日本グループ ゼロカーボン2050」を掲げ、グループ全体のCO₂排出量を2030年度に50%削減（2013年度比）、2050年に「実質ゼロ」とすることをめざしており、再エネ電力の導入は、その目標達成に向けた主な取り組みの一つです。私たちは脱炭素社会の実現に向け、今後もさらなる取り組みを進めてまいります。

1. 再エネ電力供給線区

山陽新幹線：新大阪駅～岡山駅間(関西電力送配電供給エリア)

2. 再エネ電力導入規模

発電容量ベース：約18,000kW

電力量ベース：約0.3億kWh/年

山陽新幹線全区間の年間運転用電力量の約2.5%相当（当該区間では約11.5%相当）

本件により、先行して計画している再エネ電力導入量と合わせて、JR西日本の新幹線全体の運転用電力（年間約14.3億kWh）の約13.1%相当が再エネ電力に置き換わります。

3. CO₂排出削減量

供給開始後、年間約12,800t[※]（一般家庭約4,900世帯分）のCO₂排出量が削減されます。

※2022年度電気事業者別排出係数の全国平均で算出

4. 供給開始時期

2024年度内に供給開始を予定しています。



今回ご案内の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、特に7番、11番、13番に貢献するものと考えています。



JR西日本グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

